



日本共産党  
北茨城市委員会  
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行  
市議団ニュース

ご相談は  
お気軽に  
市議会議員  
福田 明  
43-0468  
市議会議員  
鈴木やす子  
42-2462

# 市立病院 被災地医療支援で 派遣医師受け入れ

北茨城市立総合病院に  
1月10日、名古屋大学病  
院から循環器内科の医師  
が派遣され、新聞やテレ  
ビでも取り上げられて話  
題となりました。

日本医師会などによる  
「被災者健康支援連絡協  
議会」の医師派遣システ  
ムにもとづく支援です。こ  
の対象は当初、東北の被  
災3県に限られていまし  
たが、茨城県も強く要請  
し、支援地域に含まれる

ことになったものです。

ひきつづき1月30日に  
は、内科と整形外科にそ  
れぞれ1名の医師が派遣  
される予定です。この制  
度の適用は原則3月末ま  
でとされています。それ  
以降も可能性はあるもの  
の、未定とのこと。

同病院によると「派遣  
を要請した当初は、本市  
の被災状況が本当にひど  
いのか疑問視され、たんに  
医師不足からの要請で

はないかと取られる感も  
あり苦労した。派遣医師  
は基本的には外来患者だ  
けの診察なので医療収益  
にはつながらないが、常  
勤医師の負担の軽減が期待

「できる」と話しています。  
北茨城高校跡地への新  
市立病院の建設について  
は、今年の夏ごろに工事  
の入札がおこなわれ、来  
年の12月開院をめざして  
います。日本共産党市議  
団も「市民の命と健康を  
守る拠点としての新病院  
の建設促進に力をつくす  
と述べています。

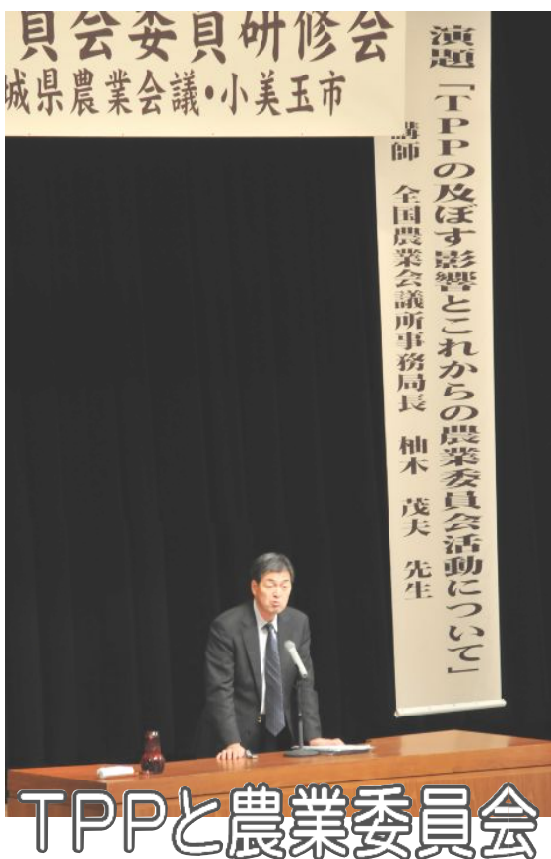
## 予 防 接 種

### 震災のもと業務遂行 市保健 センター

予防疫種協議会の報告から

1月19日、今年度の予  
防疫種協議会が開かれま  
した。この協議会は元々  
は万一の事故が発生した  
ときのために設置された  
ものです。幸い本年度も  
事故なく推移しています。  
昨年の大震災では保健

センターも避難所となり、  
対応に追われました。そ  
ういうなかでも、年度末  
・年度初めの業務を遂行し、  
5月からの予防疫種事業  
もほぼ通年どおり始める  
ことができました。  
各ワクチンの接種率は、



## TPPと農業委員会

1月24日、茨城県内の全市町村の農  
業委員を対象に、TPP問題をテーマ  
にした研修会が小美玉市で開かれまし  
た。参加者は約1200人。財界や民主党  
が掲げる加入メリットについての数々の  
疑問点などが改めて報告されました。  
また会場では「アメリカは日本の軽自  
動車の規格をなくせなんていう要求ま  
で出している」といったニュース  
も話題になっていました。  
(講演は全国農業会議所の柚木茂夫氏)

BCG、ポリオ、3種混  
合(ジフテリア・百日咳・破  
傷風)は、ほぼ100%。麻  
しん風しん混合(MR)  
は、前半は9割前後です  
が、4期目の高3生対象  
が6割に落ちるため、再  
度通知し勧奨の予定です。  
日本脳炎については、  
接種の積極的勧奨を休ん  
でいたことで空白の時期  
がありました。現在は新  
たなワクチンで高い接種  
率ですが、空白数年分の  
対象者への接種率は1割  
程度です。

さらに、23年度は3種  
類の新たなワクチン接種  
が始まりました。中学3  
年生女子対象の「子宮頸  
ガン予防ワクチン」は、  
初年度は対象を広げ中学  
1〜3年生で接種率6割  
でした。ヒブワクチンと  
小児用肺炎球菌ワクチン  
は、対象者生後2ヶ月〜  
4歳で、接種率4分の1  
ほどです。これらには本  
年度から国補助がつき、  
自己負担分は全額を市が  
助成するので、担当課で  
はぜひ勧奨していきたい

例年、この時期に心配  
されるインフルエンザは、  
1学級で2割の児童・生  
徒がかかると学級・学年  
閉鎖になります。す  
でに2つの学校で学年閉鎖  
となりました(1月24日  
現在)。予防疫種(12月末  
は、13歳未満で半数、13  
〜19歳で3割、65歳以上  
で約4割となっています。  
ワクチン開発がすすみ、  
2〜3年後には混合薬で  
の接種が始まる新しい枠  
組みも報告されました。

## ダム湖底の放射能は? ~市民から問い合わせ~

水沼ダムの湖底の放射  
能はどうなっているのか  
という問い合わせが党市  
議団に寄せられました。  
まず市の水道部に確認  
したところ、水道水の放  
射能の分析結果は、昨年  
の5月以降すべて「不検  
出」で、これは市のHP  
で公表されています。  
また浄水場から出る脱  
水汚泥については下表の  
とおり。中郷浄水場では  
徐々に下がる傾向ですが、  
華川浄水場のほうは数値が上下していま  
す。いずれも、埋め立て処分が可能とし  
て国が示している8000ベクレルより  
は低いものとなっています。  
水沼ダムの湖底については、県の管理  
というところで、市では状況を把握してい  
ませんでした。そこで直接、ダムの管理  
事務所に確認したところ、湖底の泥の検  
査はしておらず、いまのところ検査の予  
定もないとのことでした。ぜひ検査をし  
てほしいと要望しておきました。  
問い合わせを寄せた関南町のKさんは  
「濁水期になれば湖底の汚染が気になる。  
子どもたちも飲む水なんだからしっかり  
調べてほしい」と話しています。

採取日	華川 浄水場	中郷 浄水場
7/26	1432	5530
8/4	1100	3900
9/6	2233	2840
10/12	2400	2400
12/7	591	1458

ヨウ素は不検出で、数値は  
セシウム134と同137の合計。